

感染症情報 12月19日～12月25日

府下小児科201医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	3256例(堺市 195例)
②溶連菌感染症	414例(堺市 13例)
③RSウイルス感染症	251例(堺市 11例)
④おたふくかぜ	239例(堺市 20例)
⑤咽頭結膜熱	147例(堺市 8例)

が報告された。

感染症報告数は前週より20.5%減の4,646件であった(ただし祝日が1日あったため、全体の解釈として考慮が必要)。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、溶連菌感染症、RSウイルス感染症、おたふくかぜ、咽頭結膜熱の順であった。

1位の感染性胃腸炎は府下で前週比24%減、堺市では同27.5%減であった。府下の広域で警報レベルを越えているが、ピークは越えた感がある。2位の溶連菌感染症は府下で前週比17%減、堺市で48%減であった。RSウイルス感染症は府下で7%減、堺市で前週11例→11例で同数であった。4位のおたふくかぜは府下で24%減、堺市で9%減であった。

インフルエンザは府下では前週比77%増の1532例が報告され、堺市は前週43例→今回80例で86%増であった。報告定点あたり前週2.8→今回5.0となっている。当科でもじわじわ増えてきている。マイコプラズマ肺炎の報告数は府下では前週18例から今週21例に、堺市では前週1例であったのが、3例報告された。流行性角結膜炎(はやり目)は府下で前週33例、今回23例で30%減であった。

麻疹、風疹の報告はなかった。